

インドネシアのエビ 養殖事業に資本参画

オリコンサル グローバル

オリエンタルコンサルタンツグローバルは、インドネシア・スラウェシ島にあるバナメイエビ養殖事業会社「Akwakultur Konawe Nusantara」（AKN社）に資本参画した。年間1300ト規模のエビ養殖・供給体制の構築を目指す。同社はこれまで道路や橋梁、空港・港湾、上下水道などの分野で各国の社会インフラ整備を推進してきた。この経験を今回の資本参画に生かし、建設コンサルティング事業を発展させ、インフラ技術を基盤とした投資型事業モデルへ

と戦略的に進化させる。

同社はAKN社へ役員を派遣し、経営と運営に直接参画する。特に、水処理技術や施工監理技術を養殖施設的设计・施工・運営に一体的に取り

入れる方針だ。同時に雇用機会が限られている島内での雇用創出にも貢献する。

2027年5月末に完工予定の養殖施設（総面積33・9畝）では、水質や成育状況をリアルタイムで把握するデータ管理基盤を導入予定だ。加えて、ドローン技術を活用した日本からの遠隔モニタリングにより、施工・運営管理の高度化を図る。センサー技術とデータ分析を活用し、運営効率と品質の最適化を目指す。

同社は「この事業をモデルケースにして、将来的には年産約4000ト規模への拡張を視野に入れている。段階的な増設を通じて規模を拡大し、東南アジア地域における持続可能な養殖モデルの確立を目指す」としている。



養殖施設の完成予想図